

ものがたり
あかりの物語⑤

蛍光灯 (けいこうとう)

けいこうとう ねん はつめい ねんご ねん げんざい けいこうとう
蛍光灯は1935年にドイツで発明されました。3年後の1938年に現在の蛍光灯
の元祖と呼べるものがアメリカでつくられ、せかい ひろ
世界に広まっています。

「蛍光」という名前の通り、ガラス管の表面には蛍光塗料が塗られています。
ガラス管の中で紫外線を発生させて、その紫外線が塗料に当たることで光りま
す。蛍光灯の表面が白いのは塗料が塗ってあるからで、“透明な蛍光灯”とい
うものは存在しないのです。

まめちしき ほうりゅうじ とも にほんはつ けいこうとう
【あかりの豆知識】法隆寺に灯った日本初の蛍光灯

にほん ねん こくないせいぞう はじ こくない けいこうとう はじ とも
日本では1939年から国内製造が始まり、国内で蛍光灯が初めて灯されたのは
ほうりゅうじこんどう とうじ もんぶしやう きねんじぎやう ほうりゅうじこんどうへきが もしや さぎやう おこな
法隆寺金堂でした。当時、文部省の記念事業で法隆寺金堂壁画の模写作業を行
う際に室内を明るくする必要があり、1940年(昭和15年)8月27日、136灯
もの蛍光灯が初めて灯されました。

へきがもしや へきが み かた たいせつ けいこうとう かさ とうめいと ひく しろいろじき
壁画模写では壁画の見え方が大切なので、蛍光灯の傘に透明度の低い白色磁器
を用いましたが、光の反射が一定ではなく、光の反射をそろえるのに苦労した
ようです。



わしつ けいこうとう みぎの しゃしん ような かせ がよく使わ
和室の蛍光灯には右の写真のような傘がよく使わ
れます。実はこれ江戸時代の八間(八方)という
あんどん
行灯がモデルになっているといわれています。
はちけん え どじだい めすら てんじやうとう しかくけい
八間は江戸時代では珍しい天井灯で、四角形・
はっかくけい ひら あんどん てんじやう さ
八角形の平たい行灯を天井から下げるとい
うものです。湯屋や寄席、料理屋など、人が大勢出入
りする室内で使われました。「四方八方を照らす」
という意味でつけられた名前の通り、蛍光灯の
じだい へ や すみすみ て
時代になっても部屋の隅々まで照らしています。

